



うさぎとかめの通信 上越市立高田幼稚園

(園長室だより) 107周年
令和6年3月21日 第192号

HPのQRコード



「思い→体験→表現」は、幼児、児童、生徒に一貫する遊び学びの基本!

☆ご支援とご協力ありがとうございました☆

暖冬少雪の冬でしたが、時折思い出したかのように雪が舞い散る日がありました。その雪もすっかり消え、園庭の桜のつぼみが膨らみ、花壇のチューリップも芽を出し、春の訪れを感じさせてくれます。

高田幼稚園の26名の子供たちは、1年間で大きく成長しました。まつ組の子供たちは、巨大迷路作りを中心に、9名みんなで相談する場面をよく見かけるようになりました。「〇〇したい」「どうすればいいかな」「△△してみたら」など、思いや考えを出し合い、みんなで解決する姿がたくさん見られました。うめ組の子供たちは、友達のやりたいことに協力する、一緒にやる姿が見られました。園庭でピクニックごっこをすると、大きいシートを運んでくる子、友達の分もお弁当をシートまで持ってくる子、それぞれが役割を分担をしながら一緒になって遊ぶことが上手になりました。また、発表会の台詞などを教え合う姿も見られました。もも組の子供たちもこの1年で園での生活にすっかり慣れました。登園してきた子から、自分のしたい遊びを始めます。友達のしている遊びに参加して、一緒に遊ぶことも多くなりました。いつでも参加OK、抜けるのもOKなもも組の子供たちです。やりたいことを自分で見つけ、主体的に遊ぶ姿がたくさん見られました。



お家の人からもたくさん褒めてもらったお話をたくさん聞くこともできました。ありがとうございました。ご支援とご協力に感謝申し上げます。

☆言葉による伝え合いで育まれる力☆

どのクラスの子供たちも、4月に比べ、友達とのかかわりが増えています。多かれ少なかれ言葉による伝え合いがそこには見られます。

言葉による伝え合い(対話)は、成長するにつれて、内容も豊かで深いものになっています。その結果として、創造性や思考力、協同性が育まれています。例えば、砂場で何かを作る遊びをする際、最初から設計図があるわけではなく、子供たちは友達と共同しながら、新しい形やものを生み出していきます。また、相手と伝え合うことによって他の考えに触れ、それをもとに考え、新たなアイデアを出しては考えるということを繰り返しています。

どの活動においても子供たちは、嬉しそうに思いついた考えを伝えて、遊びを広げています。

その反面、友達とかかわりが増えることによって、トラブルや気持ちのすれ違いも起きます。そんな場面でも、担任は、成長のチャンスと捉え、対応しています。数の限られた道具や遊具を使う際には、交代、順番などの集団での使い方がありますが、子供たちにとっては、簡単なことではありません。譲りたくない、自分が使っていたいという時もあるれば、貸してもらえない、代わってくれないということもあるでしょう。子供たちは、その時々にはいろいろな感情を体験しています。担任は、「こうしなさい」と一方的に教えるのではなく、子供たちが納得するプロセスを大切にしています。一緒に「困ったね」と共感し、解決のためにどうすれば良いか考え、子供自身が相手に伝えることができるよう援助したり、仲介に入ったりしています。言葉での伝え合いをもとに、お互いが納得できる方策を考えるプロセスを大切にしています。

そして、担任は、子供たちにとって自分をいつでも温かく受け入れてくれる存在になるよう保育に取り組んでいます。子供たちが、安心してやりたいことに取り組み、自分の思いを表現できるように心掛けています。

令和6年度も、子供たちの伝えたいという思いを大切にしながら、様々な活動に取り組んでいきます。

令和6年度「子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰」に選ばれました！

文部科学省では、平成14年度から、国民の間に広く子供の読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子供が積極的に読書活動を行う意欲を高める活動を推進するため、特色ある優れた実践を行っている学校・園、図書館、団体・個人に対し、大臣表彰を行うこととしています（園の表彰は令和6年度から）。

今回の受賞は、園での読書に関する教育活動だけでなく、ボランティアの皆様からの毎月の読み聞かせや毎週末貸し出しをしている絵本等での保護者の皆様からの読み聞かせなどのご協力・ご支援のお陰です。ありがとうございます。

今後とも読書活動を工夫して、子供たちが図書等に親しみ、想像力を働かせたり、調べ活動に活用し思考力を働かせたりして、自分の生活を豊かにするよう支援していきます。

保護者の皆様、今後ともご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

